



気分はもう1年生——先月14日、ここ岩室小学校で新一年生の一入入学がありました。見ていると別室で、入学の指導をうける親の緊張した真剣そうな顔と、もう1年生になった気分の子どもの楽しそうな明るい顔が好対象で印象的でした。

# 新一年生 お父さんお母さんへ 入学ミニアドバイス

いよいよ一年生——元気よく「行ってきます」の音が聞けるのももうすぐです。子どもたちは小さな胸をときめかせて、新しい生活、大きな集団へ飛びこんでいきます。期待と不安が入り混るなか、のびのびと学校生活が送れるようにお父さん、お母さんへちょっとしたアドバイスを……。

## 岩室小学校一年生担任の大矢先 大平先生に、受け入れる側のアドバイス。

わが子が一年生になるといふ喜びは格別です。しかし「みんなと違って」にできるかしら、まごまごしないかしら」といった心配もまたひとしおと思います。でも学校は子どもの成長に合わせて順々に教育するのだから心配いりません。学校は楽しいところ、

「せんせい、おなかがいいたい……」保健室へ行って、少し休んだあと「トイレに行ってきたさい」しばらくしてケロリ、「ぼくもう治ったよ」——朝うんこをしてごなかたにありません。授業中集中力がありません。まず、生活習慣をきちんと身につけて、「いってきます」「いってらっしゃい」のさわやかなあいさつで登校を——。

## アドバイス1 学校は楽しいところ、 というイメージを……



岩室小学校 大矢類子先生



岩室小学校 大平敏子先生

というイメージづけをしてください。その上で、次のことに心を配っていただければよいと思います。**日常生活の基礎的な習慣を**  
**しっかりと身につける**  
朝の生活習慣、起床、洗顔、歯みがき、朝食、排便——近ごろ、食事や排便をすませずに登校する子が多いです。

**気もちをほぐし 体力をつけさせる**  
家に帰るやいなや、勉強は？今日何した？宿題は？というように攻めつけることはやめてください。そして誰かやんに負けるな、一番になれる指導は子どもの負担を重くするだけで何の効果もありません。最初の1—2カ月の精神的・肉体的負担はたいへんなものです。その子どもの負担をいやし、気

学校では、まず話を聞くことから全てが始まります——自分のいたいことは言うけれど、友だちや先生のいうことがよく聞けない子がかなりいます。話すことと同時によく聞く、この大切さを教えてください。たとえば、子どもといっしょに本を読み、話をするなど、最も効果的なことです。話を聞ける子は自分のいたいことや考えもはっきり話せます。



岩室村の四つの保育園では「集団生活の中で、明るく健康な自主性のある子どもに育てる」の保育目標の下、各地域、各園のカラーを活かした保育のなかで、食事、排便など基本的な生活習慣を身につけさせることはもちろんのこと、生命の尊重を基本にした豊かな人

## 和納第二保育園の星井園長さんに 卒園させる側からのアドバイス



和納第二保育園 星井康子園長

間性を目指しての体力や根性づくりをいろいろな経験や遊びを通して集団生活の第一歩を過ごしてきました。あの目を見張るような高層ビルも地下深く基礎が施されています。また、雪で重く曲った細い竹でも決して折れずにじっと耐え、いつかビューンと張ねのける力があるのは地下に張った無数の根と多くの節がある。と言われるように私たち人間も基礎が何よりたいせつであることは言うまでもありません。その目に見えない基礎づくりの場こそ家庭であり、お父さんお

## アドバイス2 しっかりと根の 張れる子に

母さんであると思います。これからの長い学校教育の第一歩を踏み出す子どもたちは、これまで経験してきたそれらの基礎の上にさらに学習を積み重ねて伸びて行くわけですから、どうか目先のごとみに振りまわされることがなく、真剣に子どもを見つめ、それぞれが持っているすばらしい可能性の芽を伸ばせるよう努めていただきたいと思えます。卒園、そして入学は、その可能性を引き出す最もたいせつな節です。しっかりと根の張れる子にそして子どもとともに歩けるお父さんお母さんであってほしいと思えます。

## 通学路を散歩道に

通学上の基本的な交通マナーを教えるだけでなく、学校の通学路を散歩道にして「ほら、ここで止まって左右を見て」「ここは横断歩道を渡ろうね」「ここで飛び出すと危いよ」など散歩しながら注意を与えるのも、入学時、少しの不安もなく通学ができるその上、親子のふれ合いにも役立ちます。

## だってお母さんが……

「ハンカチどうしたの？」「だってお母さんが……」教科書とうしたの？」「だってお母さんが……」と言っているわけをする子がいます。また、こんなこともありました。忘れ物を届けに来たお母さんの中には、「〇〇ちゃんごめんなさいね。お母さんがこれ入れるのを忘れてお母さんが……」これではいつまでたっても子どものだってお母さんが……はなくなるのではないのでしょうか。

子どもの自立心を養うために、むやみに手を出さず辛抱強く待つ心を持ってほしいのです。やさしく見守る気持ちで。

## 通学と交通安全

### 親がよい手本に

### 交通指導員の竹内指導員さんに 交通安全についてのアドバイスを。

子どもたちを交通事故から守るためには、基本的な交通安全ルールを身につけさせることが大切です。子どもとの話し合いのなかから交通安全を学ばせてください。

子どもの知ったかぶりの利用を——子どもの知識欲はおう盛です。そして自分の知っていることは誇らしげに話します。そこで利口なお母さんはその知ったかぶりを利用して交通安全を教えます。

たとえば「青信号がついたり、消えたりするのはなぜなの」「もうすぐ赤になるからだよ」「そう、よく知ってるね、だから青信号が点滅したらむりに渡らないで待とうね」などと話すことも理解を深める上で大切なことです。

交通安全は毎日の積み重ねによって身につけてくるものです。交通のきまりを守り、一つ一つの行動をしっかりと実践させることによって「安全な態度が身につきます。」お父さん、お母さんがよい手本になってほしいと思えます。



岩室村交通指導員 竹内一雄指導員

